



# 公益社団法人 日本美術教育連合 ニュース

No. 157

2019. 9

〒113-0033 東京都文京区本郷 2-30-14 文京ビル 206号

公益社団法人 日本美術教育連合

発行人 理事長 大坪 圭 輔

ニュース担当 北川 智 久

E-mail: info@insea-in-japan.or.jp

## 大切にしたい「教師としての感覚」

公益社団法人 日本美術教育連合理事 西村 徳 行

先日、InSEA（国際美術教育学会）世界会議バンクーバー大会に参加してきた。世界各国から集った人々の発表は、美術教育の切実な現状を示すものから新しい方向性を示すものまで幅広い内容で、とても刺激的な日々となった。大会会場となったブリティッシュコロンビア大学は、バンクーバー市西端に位置し、市中心部から車で30分ほどのところにあった。中心部からの足には主にバスが使われ、車両を縦に二両つなげたとても長いバスが、ものすごい勢いで道路を駆け抜けていた。

大会からの帰路も、その長いバスに乗車したが、その車窓からある情景が目にとまった。広々とした芝生の公園に、幼稚園か小学校低学年くらいの子供たちがたくさん集まっていた。ちょうど休日ということもあり、いろいろな催しが行われているようだったが、その芝生の上でも、いままさにある催しが行われようとしていた。それはフラフープなどの遊戯道具が道のように並べられ、子供たちがその上を跳んだり歩いたりしながら進むようにつくられていた。そのコースは左右にクネクネと曲がりながら、細くなったり太くなったりし、またゴール近くにはマットを積んだ壁のようなものができていて、子供たちがそれを越えるようになっていた。フラフープの間隔も一定ではなく、近いところもあれば遠いところもある。子供を夢中にするのには、絶妙な高さや距離でコースがつくられていた。はじめて訪れた場所のみた一風景ではあったが、それを車窓から見つけた時、「これをつくった人は、子供のことをよくわかっている人だな」と感じた。

図画工作や美術の授業づくりにおいても、この感覚が必要である。子供たちに提示される授業は、子供たちが「全く登れない壁」ではなく、子供たちがそこに「登ってみたいと思える壁」であることが大切である。また教師は、用意した授業をクリアするだけでなく、そこで思いもよらないチャレンジが起こることを喜びと感じている。芝生の上につくられたコースから、教師の授業に対する思いと同じようなことが感じられた。

あと半年で新しい学習指導要領の完全実施が始まる。これから解決すべき新しい課題もたくさんあるが、この「教師としての感覚」だけは、これからも変わらず大切にしていきたいものである。

## 第53回 日本美術教育研究発表会2019 案内

1. 日 時 2019（令和元）年10月13日（日）受付9：30 閉会16：45（予定）
2. 会 場 東京家政大学板橋キャンパス 16号館  
〒173-8602 東京都板橋区加賀 1-18-1
3. 主 催 公益社団法人 日本美術教育連合（InSEA-JAPAN）
4. 後 援 文化庁（申請中）

研究局より

## 第53回日本美術教育研究発表会2019（最終案内）

□主 催： 公益社団法人 日本美術教育連合（InSEA-Japan）

□後 援： 文化庁（申請中）

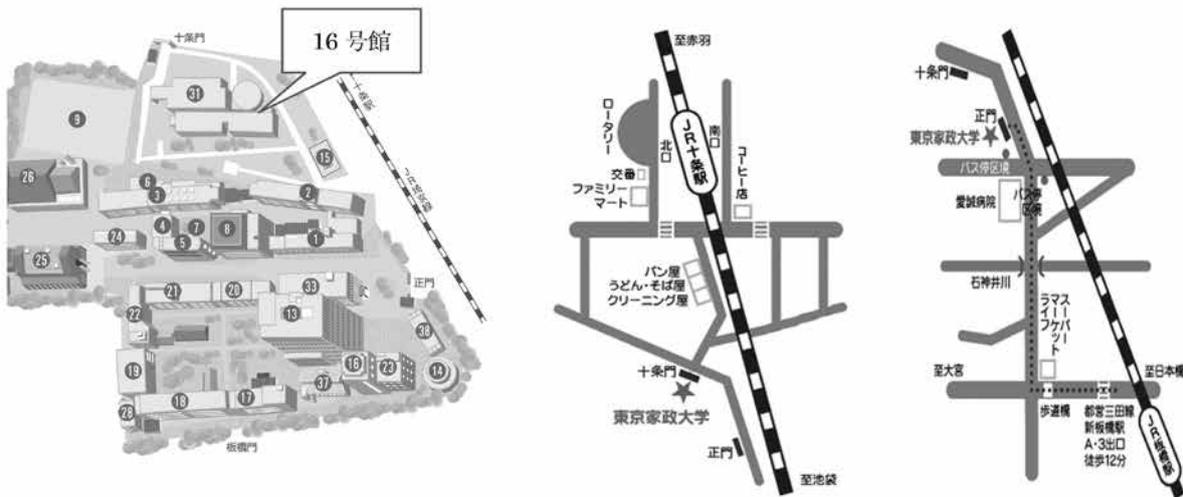
□開 催 日： **令和元年10月13日（日曜日）**  
9時30分から16時45分（予定）  
懇親会：16時45分から19時（予定）

□会 場： **東京家政大学板橋キャンパス**  
十条門正面16号館一带  
〒173-8602 東京都板橋区加賀1-18-1

□アクセス： JR埼京線十条駅下車徒歩5分  
JR埼京線板橋駅下車徒歩17分



### 会場案内図



□参加資格： どなたでも当日参加可能です。

□参 加 費： 1,000円（概要集代）お誘い合わせの上ご参加ください。

□昼 食： 当日大学内では昼食を購入できません。駅付近のお店をご利用ください。

□お問い合わせ： 研究局運営委員長：結城孝雄 東京家政大学  
Tel&Fax：03-3961-5594（研究室直通）  
takaoyuki@tokyo-kasei.ac.jp（随時アクセス可能）

第 53 回日本美術教育研究発表会 2019 2019(令和元年)10月13日(日)

Japan Art Education Association 53rd Japan Art Education Research Presentation

会場:東京家政大学 16号館 主催 公益社団法人 日本美術教育連合 後援 文化庁(申請中)

9:30	受付開始 Start accepting				
9:45	開会式 Opening ceremony 会場A 161A教室 発表者控え室 162A 2F				
9:55	会場A161A (理論等)	会場B161B (海外)	会場C161C(inclusive)	会場D162B(実践報告)	会場E 162C(幼児・指導者)
10:00	A-1 脳科学の知見による感性教育の創造性 東京学芸大学大学院 連合学校教育学研究所 松井 素子	B-1 秋田&フィンランドの「視覚美術・工芸」教育交流展の実践報告(3) 一地域の共通性と相違性の視点でふるさとを文化を捉える一 秋田公立美術大学 有馬 寛子 尾澤 勇	C-1 特別支援学校における ICT を活用した美術の単元構成 沖縄県立 島尻特別支援学校 小橋川 啓	D-1 さいたま市土曜チャレンジスクールにおける版画指導 一スチレン版画における指導と支援の在り方一 一般社団法人日本版画院 中條 秀憲	E-1 同じ空間に居る幼児同士が、作品を創造する際に、互いに影響を受けることについて 東京学芸大学大学院 白神 瑛子
10:25	A-2 戦後の美術科教科書における掲載作品の研究(20) 一美術科教科書 1956~2020 年度掲載の「日本美術史年表」の検討一 元宇都宮大学 山口 喜雄	B-2 レッジョ・エミアとブルーノ・ムナーリの芸術教育比較研究 鶴川女子短期大学 藤田 寿伸	C-2 盲重複障害児のための美術科教材開発 群馬大学大学院 多胡 宏	D-2 社会と関わる美術教育についての一考察2 一中学生を対象とした自然災害をテーマにした鑑賞授業の分析から一 群馬大学大学院教育学研究科 梶原 千恵	E-2 幼児の造形活動における素材と道具の関係性 無所属 大屋 理香
10:30	休憩 (15分) break				
10:55	A-3 テクスチャやコンポジションへの注意を促す試み 一アートゲームにおけるプレイヤーの発言に着目して一 東洋大学 北澤 俊之	B-3 フランスの「普通教育における造形芸術教育」の断片的紹介 一19世紀を中心に一 元東京都立小・中学校教諭 藤崎 典子	C-3 聴覚障害当事者とともにこなうアートの実践: 認知特性と社会包摂の観点からの基礎的研究 東京学芸大学大学院 連合学校教育学研究所 細野 泰久 キョーリン製薬ホールディングス・徳島県立近代美術館アートイベントサポーター 小笠原 新也	D-3 地域の風景と文化に焦点を当てた貼り絵の共同制作 一東日本大震災の復興支援活動の実践から一 筑波大学附属 聴覚特別支援学校 橋本 時浩	E-3 小麦粉粘土を用いた幼児の造形遊びに関する一考察 東海大学短期大学部 佐藤 絵里子
11:10	A-4 STEAM 教育にみる異領域間の融合原理(Ⅱ): 「Arts」および「融合」の解釈 東京家政大学 畑山 未央	B-4 日本の国際協力における基礎教育・造形美術分野の一考察 東京造形大学 山田 猛	C-4 聴覚障害当事者がアート鑑賞のファシリテーターを務めることの意義 キョーリン製薬ホールディングス・徳島県立近代美術館 アートイベントサポーター 小笠原 新也 東京学芸大学大学院 連合学校教育学研究所 細野 泰久	D-4 地域と子どもをつなぐ地域素材を活用した中学校美術科の授業開発 一ふるさとへの思いをフレスコ画で表現する一 大分県津久見市立第一中学校 永松 秀恵	E-4 幼児が粘土に触れ合う手の使い方から手てツクル>コトへの意味連関を考察する 鶴見大学短期大学部 鮎島 良一
11:40	論文投稿者説明会 12:10-12:25				
12:10	昼食(12:10-13:00)				
13:00	ポスター発表 :Poster Presentation				
13:25	Art-Based research on creative media: The case of the documentary film about indigenous education National Pingtung University Taiwan Tzong-Sheng Deng Kun-Han Lee				
休憩 10分 break					
13:35	A-5 美術科教育におけるフォントの意味と色彩感情の関係 中村学園大学 流通科学部 流通科学科 姉川 正紀	B-5 韓国の小学校教科書における美術鑑賞教育 一現代美術のかかわり方を中心に一 韓国 春川教育大学 柳 芝英	C-5 鑑賞学習を通じた知的障害高等部生徒における言語発達事例研究 筑波大学附属 大塚特別支援学校 筑波大学大学院 森 芸恵	D-5 地域社会に共創する復興支援活動における対話的立場について 「ふるさと熊本アートプロジェクト 2018 一ふるさとに願いを 星あかり七夕夢美術館」 一大学院からのアプローチを中心に一 熊本大学 赤木 恭子	E-5 「社会につながる美術教育」の実現を目指した現職教員研修の一実践 一群馬美術教育研究所(ぐんびけん)の活動記録から一 東京福祉大学短期大学部 井上 昌樹 富岡市立顔部小学校 大塚 裕貴 邑楽町立中野小学校 亀井 章央 太田市立中央小学校 貞永 瞳 館林市立第一小学校 藤原 秀博 前橋市立細井小学校 渡邊 彰 みどり市立笠懸南中学校 茂木 克浩
14:00	A-6 図画工作科における子どもの価値観についての考察 一抽象的表現に着目して一 八王子市立宇津木台小学校 戸室 鉄平	B-6 フィンランドにおける美術教育の動向に関する調査研究 新潟大学大学院 現代社会文化研究科 新潟市立新津第二中学校 甲田 小知代	C-6 インクルーシブドローイング・ワークショップ 群馬大学教育学部 茂木 一司 群馬大学大学院 梶原 千恵 住中 浩史 竹丸 草子	D-6 中学校美術科と国語科等の教科融合型学習の研究(3): 故郷の色をテーマとした学習の成果と課題 大分大学 藤井 康子 花坂 歩 津久見市立第一中学校 永松 秀恵	E-6 保育者志望生の木製おもちゃづくりに関する継続的研究 一木育への自己意識を高める一 東洋英和女学院大学 三上 慧
14:05	休憩(20分)break				
14:30	A-7 概念イメージの生成に働く比喩思考の差異 一異年齢児の実践比較から一 東京家政学院大学 立川 泰史	B-7 Making - Place: InSEA2019 ワールドコンgresでのポストカード展示会の実施報告 British Columbia 大学 博士課程 森本 謙 Marzieh Mosavarzadeh	C-7 児童の主体性を引き出す図画工作授業実践の研究(4) 一中学年の鑑賞活動について一 沖縄カトリック小学校 矢澤 聡	D-7 全天球カメラを活用した造形教育の実践 一テキストマイニングを活用した分析からその教育的意義を考える一 登米市立北方小学校 宮崎 敏明	E-7 ワークショップ型授業を支える実践共同体の考察 一コーディネーターの役割に着目して一 群馬大学大学院 竹丸 草子
15:20	A-8 図画工作科における創造活動を通じた「造形的な視点」の研究Ⅳ 一人間らしい学習のあり方について一 東京学芸大学 西村 德行	B-8 保育者養成における探究的な保育実践の学習 一アート・ペイス・アプローチによる探究過程の創出と理解についての考察一 東京学芸大学 笠原 広一	C-8 学校内における誰もが自由に表現活動を行うことのできる場のもつ可能性 一「カオスキャラリ」を利用した別室登校生徒の変化に着目して一 みどり市立笠懸南中学校 茂木 克浩 群馬大学大学院 住中 浩史	D-8 言語活動で主題性を深め、共通事項を使うことのできる生徒の育成 新潟産業大学附属高等学校 吉野 榮子	E-8 美術のワークショップ実践者の支援に関する研究 一熟達段階に基づいた自己評価ルーブリック開発の予備的考察一 筑波大学大学院 人間総合科学研究科 廖 繼彰
15:55	A-9 発想・構想過程と表象書換えモデルの関係性 東京学芸大学 山田 一美	B-9 A/r/tography の視点をを用いた「託す」造形活動の授業開発と実践 兵庫教育大学大学院 連合学校教育学研究所 家崎 萌	C-9 図画工作における系統性を踏まえた題材の検討 一1年生と3年生の描画に関する実践の考察一 中部学院大学短期大学部 小室 明久 立川市立新生小学校 宮崎恒平	D-9 情動が媒介となる造形遊びの事例研究 東京学芸大学附属小金井小学校 守屋 建	E-9 ワークショップにおける関係性に 関する実践的研究Ⅲ ワークショップを通じた親の関わりについての一考察 東京学芸大学大学院 連合学校教育学研究所 前沢 知子
16:00	閉会式 Closing session 会場A 161A教室 ~16:50				
16:50	懇親会 Social gathering ルーチェ 16号館 1F 一般:2500円 院生・学生 2000円 お酒寄付歓迎				

# 第53号 日本美術教育研究論集 2020

## 【投稿および掲載要項】

### 研究論集編集委員会

#### 投 稿 要 項

- 投稿ならびに掲載の条件：  
第53回日本美術教育研究発表会の研究発表者は、『日本美術教育研究論集53』に投稿できません。投稿論文の研究論集への掲載は、次の(1)~(7)の条件を全て満たしたものに限り、(1) 投稿原稿の題目ならびに内容が、研究発表会における発表内容と同じであること。(2) 投稿原稿の内容が、未発表かつオリジナルなものであること。(3) 投稿原稿の内容が、投稿された各群の内容として適合していること。  
I群(理論・実践研究論文)…理論的・実践的な実証に基づいた独創的な知見を含む論文。  
II群(実践研究報告等)…さまざまな教育現場におけるすぐれた実践を報告するもの。  
III群(研究ノート)…将来の研究につながる問題の提起ならびに先行研究や事例の紹介。(4) 投稿原稿の書式、分量等が守られていること。(5) 掲載料を期日(2019年11月6日)までに納入していること。(6) 作品の図版や写真・VIDEO映像等の著作物を利用する場合および写真等の肖像権は、投稿者が必ず事前に著作権者・出版社・所有者・本人もしくは保護者等の許諾を得ること。  
引用文献には、脚注または本文中に発行所・出版年・該当頁等の出典を明記すること。(7) 以上の条件を基に研究論集編集委員会における査読を経て、投稿原稿の掲載が妥当と判断されること。
- 論文査読：  
I群(理論・実践研究論文)・II群(実践研究報告等)・III群(研究ノート)ともに複数の査読委員が査読を行い、編集委員会での審議を経て投稿原稿掲載の可否を決定します。掲載が決定した論文は、各主査がまとめて論評し、各論評を研究論集の〈論評の部〉に掲載します。
- 原稿書式：  
I群・II群・III群ともに、本文および図版(写真・表・図等)等、英文サマリー(I群のみ)を含め、下記の文字数を守って下さい。  
1頁分は、A4横組2段 23字×44行×2段=2024字です。  
題目(副題)、所属、氏名は、第1頁の1行目から2段取りで記載し、本文は10行目から書き始めます。なお、題目の英語表記ならびに所属、氏名のローマ字表記もこれに含めます。共通の項立て・見出しを用い、以下の番号と見出し語のみとします。  
大項目 1. 2. 3. [全角数字] …、中項目 (1) (2) (3) …、小項目 ①②③…。
- 掲載料：  
I群・II群・III群ともに掲載料は、一般(給与を得ている内地留学生等を含む)15,000円、院生・学生8,000円です。  
8頁(III群のみ6頁も可)を原則とし2頁増ごとに6,000円を加算し(奇数頁の場合も余白頁を含めて2頁増として計算)、10頁では一般21,000円、院生・学生14,000円です。  
頁の上限は12頁で、一般27,000円、院生・学生20,000円です。  
カラーページは1頁につき12,500円を加算します。  
抜き刷り(一律50部)は、8頁モノクロで7,000円です。2頁増ごとに2,000円を加算します。  
抜き刷りのカラーページは、1頁ごとに2,000円を加算します。  
掲載料は下記口座に納入し、送金証明書(利用明細書のコピー等)を投稿論文に同封して下さい。  
口座記号番号：00170-1-86036(右寄せで記入)郵便振込です。  
加入者名：公益社団法人日本美術教育連合  
ご依頼人：(〒)おところ・おなまえ・電話番号・所属  
通信欄：例 掲載料15,000円(一般、8頁)+増加分6,000円(2頁増の場合)=21,000円(計10頁)  
抜き刷りを希望の場合は、その旨明記し、必要な金額を加算してください。  
※査読の結果、掲載に至らない場合は、納入した掲載料の内5,000円(院生・学生3,000円)を引いた金額が返金となります。

#### 〈投稿原稿〉11/6(水)必着

- 投稿〆切：  
2019(令和・元)年11月6日(水)必着。I群・II群・III群ともに、  
①原稿(正1部と副3部、計4部)、②投稿エントリーシート、③送金証明書(エントリーシートに貼付)を提出して下さい。  
投稿原稿は、完全原稿とし、締め切り期日以降の差し替え・変更は認めません。  
ただし、研究論集編集委員会が修正を求めるときは、この限りではありません。  
なお、発行日は2020(令和2)年3月31日を予定しています。
- 送付先：  
〒173-8602 東京都板橋区加賀1-18-1  
東京家政大学 家政学部 児童教育学科 結城孝雄 宛
- 詳細連絡：  
研究発表会当日に詳細を連絡します。口頭発表者は時程と場所を二次案内で確認して下さい。
- 問合せ先：  
研究論集編集委員会委員長 立川泰史：042-782-9811(代) tachikawa@kasei-gakuin.ac.jp  
(東京家政学院大学)

## 公益社団法人日本美術教育連合主催 造形・美術教育力養成講座 第5期 美術教育ワークショップ—越境し、拡張する美術—

- ・「こくちーず」を用いて詳細な告知と募集を行います。公益社団法人日本美術教育連合ホームページからも「こくちーず」へお進みいただけるようにリンクを用意します。
- ・参加費1つの講座につき4,000円（日本美術教育連合会員・学生・院生：2,000円）
- ・2/3以上を受講し、規定を満たした参加者には、公益社団法人日本美術教育連合の「認定書」を授与します。

1. 対象：幼保・小・中・高・大学教員、学生、院生、美術関係者、画塾経営者、連合会員
2. 日程及び内容等：1講座2コマ（講義とワークショップ）とし、4講座（合計8コマ）開催します。  
※時間の詳細は会場の関係で変更する場合があります。
  - ① 第1回講座 2019年12月14日（土）講義13：30～15：00 ワークショップ15：15～16：45  
会場：明治学院大学  
「言葉の壁を乗り越えるデザインと伝え方」講師：桐山岳寛（大同大学）  
モンゴルでの国際協力活動をもとにビジネスや教育現場で役立つ図解やグラフの効果的な活用術に関する講演及びワークショップ  
下記のURLからご確認いただけます（第1回講座）。  
<https://www.kokuchpro.com/event/b20107ecd066c06251cc613351917717/>
  - ② 第2回講座 2020年1月11日（土）講義13：30～15：00 ワークショップ15：15～16：45  
会場：明治学院大学  
「目で見る美術を乗り越えて？見えない・見えにくい人と共につくる新しいアートー」  
講師：日野陽子（京都教育大学）  
視覚障害者に開かれた美術館をつくるまでのプロセスに関する講演及び開発したプログラムや教材によるワークショップ  
下記のURLからご確認いただけます（第2回講座）。  
<https://www.kokuchpro.com/event/544155275a9a2a031e8240c82cab28e9/>
  - ③ 第3回講座 2020年1月25日（土）講義13：30～15：00 ワークショップ15：15～16：45  
会場：武蔵野美術大学デザイン・ラウンジ  
「アートと社会のこれからの関係を考える」講師：上坂真人（アマナ執行役員）  
活性化するアートマーケットの現状と課題に関する講演及びワークショップ  
下記のURLからご確認いただけます（第3回講座）。  
<https://www.kokuchpro.com/event/aa00fc5612bac8ca368fd1fc66f1b9b2/>
  - ④ 第4回講座 2020年1月26日（日）講義13：30～15：00 ワークショップ15：15～16：45  
会場：武蔵野美術大学デザイン・ラウンジ  
「越境し、拡張する美術鑑賞」講師：杉浦幸子（武蔵野美術大学）  
アートと社会をつなぐデザインに関する講演及びワークショップ  
下記のURLからご確認いただけます（第4回講座）。  
<https://www.kokuchpro.com/event/efba5c6ef1387ae706ff7908c23cb6ee/>  
※不明な点は 事務局 日本体育大学 奥村高明 (okumura@nittai.ac.jp) まで

## InSEA（国際美術教育学会）2019世界会議バンクーバー大会報告

国際局担当理事 西村 徳行

2019年7月9日から13日まで、InSEA2019世界会議バンクーバー大会が、カナダのプリティッシュコロンビア大学で開催されました。大会テーマ「Making-Place, Indigenize, Identity, Experiment」を基に、「21世紀の美術教育のあらゆる側面で『MAKING』がどのように理解されているのか？」を、記念講演やシンポジウム、多数の口頭発表やワークショップをとおして考える機会がもたれました。日本からの参加者も20名ほどあり、口頭発表やワークショップなどをとおして、研究成果の発表がなされました。

今回の私のミッションの一つに、第53回日本美術教育研究発表会2019において、今年初めて実施される外国籍の研究者、留学生を対象としたポスター発表の告知を、会場に掲示することがありました。本企画の計画・実施に尽力された結城孝雄研究局担当理事が作成されたポスターを、会場に掲示してきました。なお本企画の情報については、InSEAアジア評議員であり、本連合の国際局局員でもある佐藤真帆局員にご尽力いただき、InSEAのホームページにも掲載されています。

なお次回のInSEA世界会議は、2年後の2021年7月上旬に、「持続可能な開発のための美術教育」をテーマに、中国杭州の杭州師範大学で開催される予定です。



図1：開会式の様子



図2：ポスターの前で

### 役員選挙予告

## 第6期、令和2（2020）・令和3（2021）年度役員改選について

理事長 大坪 圭 輔

第5期、平成30（2018）・令和元（2019）年度役員任期満了に伴う、第6期、令和2（2020）・令和3（2021）年度役員選挙につきましては、「公益社団法人日本美術教育連合定款25条」により、令和元（2019）年12月に郵送によって実施します。つきましては、8月25日に開催しました第4回理事会及び運営委員会において、選挙管理委員会委員長に立川泰史氏を選出いたしました。今後は、立川泰史選挙管理委員会委員長の管理の下、令和元（2019）年12月初めに会員の皆様宛てに投票用紙の郵送、同年12月末までに会員の皆様より郵送による返信にて投票、令和2（2020）年1月初旬に開票となります。結果は同年3月の連合ニュース及びホームページで公開し、同年5月10日開催予定の令和2（2020）年度定時総会での新役員承認となります。詳細な日程は未定ですが、会員の皆様にはご予定頂きますようお願いいたします。

## 《造形・美術フォーラム 2019》のお知らせ



### 演題 浮世絵の巨匠 葛飾北斎 (仮題)

葛飾北斎は、LIFE誌特集「この1000年で最も重要な功績を残した世界の人物100人」に選ばれています。また、「優れた絵師である一方、絵手本による指導者」としても特筆できます。上記演題は仮題です。没後170年のいま、北斎研究の第一人者、小林忠氏に葛飾北斎について縦横に語っていただきます。

- 日 時 **令和元 (2019) 年12月22日 (日)**  
14:00開会～16:30予定 [終了後、16:50～懇親会を予定]
- 会 場 **すみだ北斎美術館 講座室**  
東京都墨田区亀沢2丁目7番2号  
TEL: 03-6658-8936 (9:30-17:30 休館日除く)
- 講 師 **小林<sup>ただし</sup>忠氏**  
国際浮世絵学会会長 国際北斎学会会長
- 交 通 **都営地下鉄・JR総武線・都営バス**  
都営地下鉄大江戸線「両国駅」出口より徒歩5分  
JR総武線「両国駅」東口より徒歩9分  
都営バス・墨田区内循環バス「都営両国駅前」より徒歩5分
- 運 営 美術教育連携交流担当部会  
山口喜雄 (元宇都宮大学教授)  
橋本光明 (すみだ北斎美術館館長)  
長田謙一 (首都大学東京客員教授)  
[写真は講座室、妹島和世氏設計「すみだ北斎美術館」外観：山口撮影]
- 連絡先 nobuoya@cc.utsunomiya-u.ac.jp 山口喜雄

【10月1日、申込みを受付開始 (予定)】

<https://kokucheese.com/event/index/577501/>

**事前申込みが必要です！参加費無料**

会場の都合で入場人数に限りがあります。10月20日までは公益社団法人日本美術教育連合「会員」を優先に「上記」から受け付けます。先着順のため、非会員の方からのお申し込みは受理できない場合もあります。参加の可否は個別のメールで返答します。メールアドレス、電話連絡先は正確にご記入ください。(メールでの連絡ができない場合は電話連絡をいたします。連絡不可の場合は受理できません)

## 事務局便り

### ■会員の異動について（敬称略）

〈入会者〉大屋理香・小笠原新也・亀井章央・貞永 瞳・橋本時浩・花坂 歩・藤田寿伸・湯瀬明意・渡邊 彩（8月25日開催の理事会にて承認）

なお、すでに入会申込みをいただきながらここに掲載できなかった方々は、10月の理事会において正式に会員として承認される予定です。予めご承知おきください。

### ■「第53回日本美術教育研究発表会2019」が開催されます！

来る10月13日（日）に、第53回日本美術教育研究発表会2019（文化庁後援申請中）が東京都板橋区の東京家政大学板橋キャンパスにて開催されます。エントリーをいただきました会員のみなさまには、まことにありがとうございました。おかげさまで本年度は45件と、昨年度に引き続き多数の方々が発表して下さることになりました。日常的な実践の中で児童生徒の姿をもとに紡がれた報告から、理論的・科学的な精査から組み立てられた研究、世界の美術教育の動向まで、多彩な発表が期待されます。会員のみなさまにおかれましては、ぜひ会員外の方も誘いいただき、多数ご参加くださいますようお願い申し上げます。

なお、参加費として概要集代1,000円を戴いております。運営上の経費としてご理解下さい。また、同会場で行われる懇親会は、楽しく参加者同志の交流が図れる絶好の機会です。参加費は、一般3,000円・学生2,000円と、大変リーズナブルになっておりますので、こちらも奮ってご参加ください。

### ■会費納入のお願い

**令和元年度（2019年度）会費 6,000円 を納入してください。**

※会計年度は、令和元（2019）年4月1日～令和2（2020）年3月31日となります。

※振り込み先：（公社）日本美術教育連合 郵便振替00170-1-86036

※期限が過ぎておりますので、お早めの納入をお願い申し上げます。

※インターネットバンキングでもお支払いいただけます。その際、お名前や会費年度等をご記入いただきますようお願いいたします。

---

### ■お問い合わせ先：公益社団法人日本美術教育連合事務局

〒112-8606 東京都文京区白山5-28-20 東洋大学文学部教育学科  
第8研究室内 公益社団法人日本美術教育連合事務局 北澤 俊之  
TEL：03-3945-8568（研究室直通）  
E-mail：kitazawa@toyo.jp